



短根ゴボウ

販売開発部
営農指導員 伊藤 統之

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural - work technical diary



イチゴ

成東経済センター
営農指導員 宇井 文英



天敵を利用した害虫防除

近年、化学農薬に対する感受性が低下したハダニが急増しています。現在、効果の高い農薬も効きづらくなり、薬剤だけの防除が難しくなっています。そうした感受性が低下したハダニの防除には、天敵利用がおすすめです(写真①、②参照)。「天敵+化学農薬」は、天敵を生かしたままハダニを減らすことで、相乗的な効果が期待できます。安全・安心に対する消費者の関心も高いこと、また、生産現場における省力化や周辺環境への配慮から、化学農薬に頼った防除体系だけでなく、天敵を取り入れた総合防除が進められています。

ハダニは主に葉裏に寄生して汁を吸うため、葉の色がカスリ状に白く抜けてきます。卵から成虫までの発育期間は、25℃で10日程度です。乾燥すると増殖が激しくなります。

天敵農薬の利用

圃場で天敵を飼い、害虫を食べさせるという考え方で天敵が定着していれば、薬剤の使用を出来るだけ我慢しましょう。定着に失敗して被害が出るような場合は、天敵を必要以

種子の準備

管内では、サラダ向けの短根ゴボウとして、「品種名「ほちゃん」」が主に作付けされています。

播種を行う場合はシーダートープで行います。シーダートープには、ホルセロン(土中の水分で溶けて発芽する。雨天時、使用不可)とメシユロン(催芽播種ができ、乾燥時での発芽が安定)があります。

圃場の準備

圃場の条件としては、ゴボウは湿害に弱いので、排水性・保水性が良い圃場を選択しましょう。

施肥量は、表②を参照してください。耕うちは深耕を基準とすることで根の生育がよくなり、秀品性が高まります。また、高畝にすることで根長を確保できます。

播種

播種については、条間90cm・株間8cmが基準となります。覆土は1.5〜2.0cm行い、鎮圧することで発芽をよくなります。

播種後の管理

除草剤を使用する場合は、播種直

上に弱めないようにスポット処理をします。その際は、天敵への影響を十分確認してから散布します。害虫密度が高く天敵の手に負えない場合は、薬剤防除に切り替える判断が必要となります。



写真① ナミハダニ(写真下)を捕食するチリカブリダニ(写真上)



写真② ナミハダニ(写真右)を捕食するミヤコカブリダニ(写真左)

後に行います。ただし、ゴボウは除草剤の薬害を受けやすいので、2度だけを行わないよう注意してください。

追肥を行う場合は、播種後一カ月(本葉4〜5枚)頃になります。病害虫防除は、表③を参照してください。

近年、根菜類を中心にゾウムシ類の被害が拡大しています。特に、前作での落花生の作付けや荒廃地での周囲では、ゾウムシ類の発生が多くみられますので注意してください。防除に当たっては、播種前ならびに生育途中での薬剤散布が重要となります。

収穫

収穫の目安は、播種後100日程度となります。極端な収穫遅れは、本来

表② 施肥基準例

	肥料名	保証成分(%)	施肥量
基肥	里芋生姜ブリケット	8-10-7	180kg
	SCちば野菜専用	17-11-11	100kg
	苦土重焼燐	0-35-0	40kg
	マルチサポート2号	総合微量元素	60kg
	粒状苦土石灰	アルカリ分55%	100kg

表③ 病害虫雑草防除例

病害虫雑草名	薬剤名	希釈倍率または使用量(10a当たり)	使用時期(収穫前日数)	総使用回数	備考
ネコブセンチュウ他	DC油剤	15~20ℓ	作付けの10~15日前まで	1回	
一年生雑草	トレファノサイド乳剤	200~300ml(100ℓ)	播種直後	1回	
ヒョウタンゾウムシ類	トクチオン細粒剤F	6kg	収穫30日前まで	4回以内	株元散布
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	2000倍	収穫14日前まで	5回以内	
黒斑細菌病	カスミンボルドー	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	

の品質(柔らかさ・食感)が損なわれますので、播種時期を分散させて作付けの調整を行ってください。収量は、10ア当たり800kg〜1000kgが標準となります。

表① 天敵農薬の使用例

品名	作物名	適用病害虫名	使用量
アフィパール※(コレマンアブラバチ)	野菜類(施設)	アブラムシ類	2瓶/10a(約1,000頭)
スパイデックス(チリカブリダニ)		ハダニ類	100~300ml/10a(約2,000~6,000頭)
スパイカルEX(ミヤコカブリダニ)			100~300ml/10a(約2,000~6,000頭)
ククメリス(ククメリスカブリダニ)		アザミウマ類	50~100頭/株

(使用時期: 発生初期/使用方法: 放飼)
※アフィバンク(バンカープランツ)を同時に導入すると効果が上がる。

1月の分析経過について

合計3点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	春キュウリ……………1点
	里芋(ちばエゴ)……………1点
	葉玉ねぎ……………1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数……………合計47点